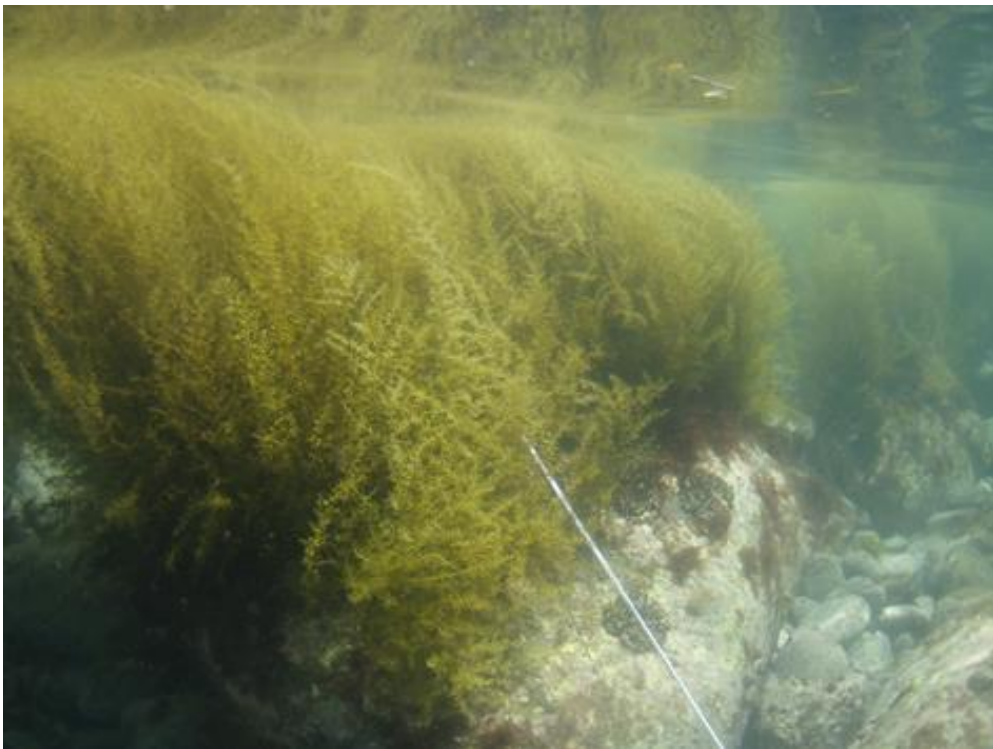


長崎県の海藻 (長崎市)



西日本オーシャンリサーチ

JF 全漁連

※この資料の著作権は西日本オーシャンリサーチに帰属します。
無断転載は禁止します。

福田・深堀で見られるホンダワラ科藻類



イソモク

形態	付着器は繊維状で、主枝は丸みのある3稜形 気胞は楕円～洋梨形
成熟期	春～夏
その他	福田では優占種 深堀では点生 浅場に生息する種



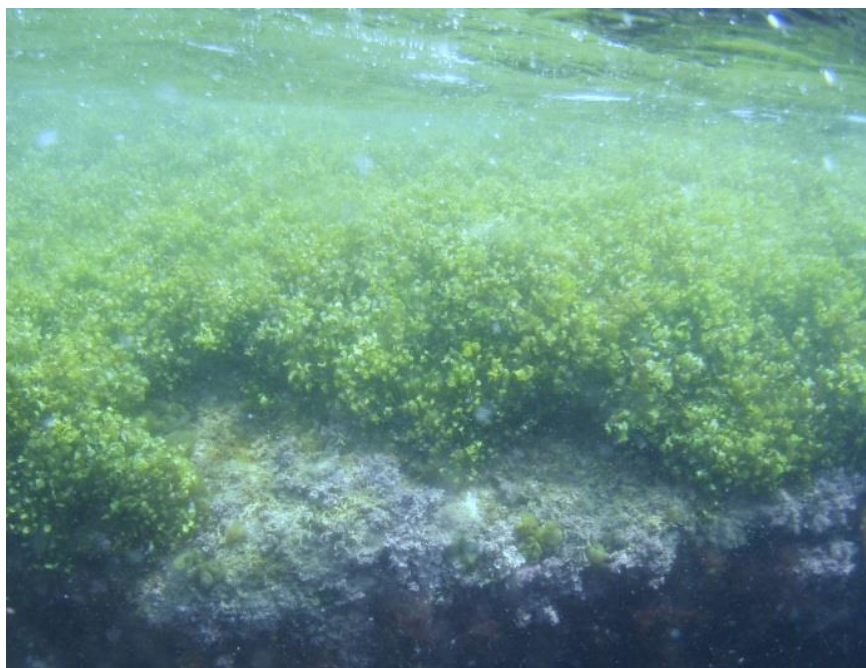
ヒジキ

形態	付着器は繊維状で、主枝は円柱状 気胞は紡錘形
成熟期	春
分布	福田では協定範囲全域、深堀では鵜瀬の潮間帯に密生 もっとも浅場に生育



ウミトラノオ

形態	付着器は平たい盤状で、主枝はやや角ばる 気胞は紡錘形
成熟期	春～初夏
その他	福田・深堀の浅所に生育している ヒジキよりやや下で見られる



ヒイラギモク（旧フタエモク）

形態	付着器は仮盤状で、主枝は円柱～扁圧 気胞は球形で翼がある
成熟期	春～初夏
その他	福田・深堀の浅所に生育しているが個体数は少ない ゴワゴワした見た目をしている



キレバモク幼体



キレバモク

形態	付着器は盤状で、主枝は角ばり、棘が密生する 気胞は卵～球形
成熟期	春～初夏
その他	深堀では優占種の一つ 福田では稀

深堀で見られるホンダワラ科藻類



マメタワラ

形態	付着器は盤状で、主枝は扁平 気胞は球形
成熟期	初夏
分布	鵜瀬周辺の砂礫帯に生育



若芽



幼体



雌性生殖器床(白い箇所は放卵後)



雄株(雄性生殖器床は細長い)



アカモク

形態	付着器は仮盤状で、主枝を持たない 茎には縦の筋がある 葉は切れ込みが深い 気胞は円筒状で長く、頂端に冠葉がある 生殖器床は大きく、受精卵は肉眼で見える
成熟期	冬～春 成熟時期が長く、各地で差がある
その他	全国各地で盛んに取り上げられ、利用価値が高くなっている



マジリモク

形態	付着器は盤状で、主枝は円柱形～扁圧 気胞は球～楕円形
成熟期	春～夏
分布	協定範囲の北端付近(F-9)に群落形成



ヤツマタモク

形態	付着器は盤状で、主枝は平たく2稜形 気胞は卵形～倒卵形で冠葉が発達する 全国各地に広く分布し、形態は地域・環境によって差がある
成熟期	春～初夏
分布	大型藻場を形成する種であるが、深堀では少ない

深堀で優占する海藻種



葉部が食害された生体
食害生物は写真上部のアメフラシ類



胞子葉(めかぶ)が食害された生体
食害生物はウニ類と思われる

ワカメ

形態	葉の中央部には中肋と呼ばれる筋がある
成熟期	北日本では夏、西日本では春
分布	沖縄県を除く全国各地
その他	海藻の王様とも言われ各地で養殖が盛んに行われている 葉、茎、めかぶともに美味



扇状に広がることから“海の団扇”



食害に遭った生体

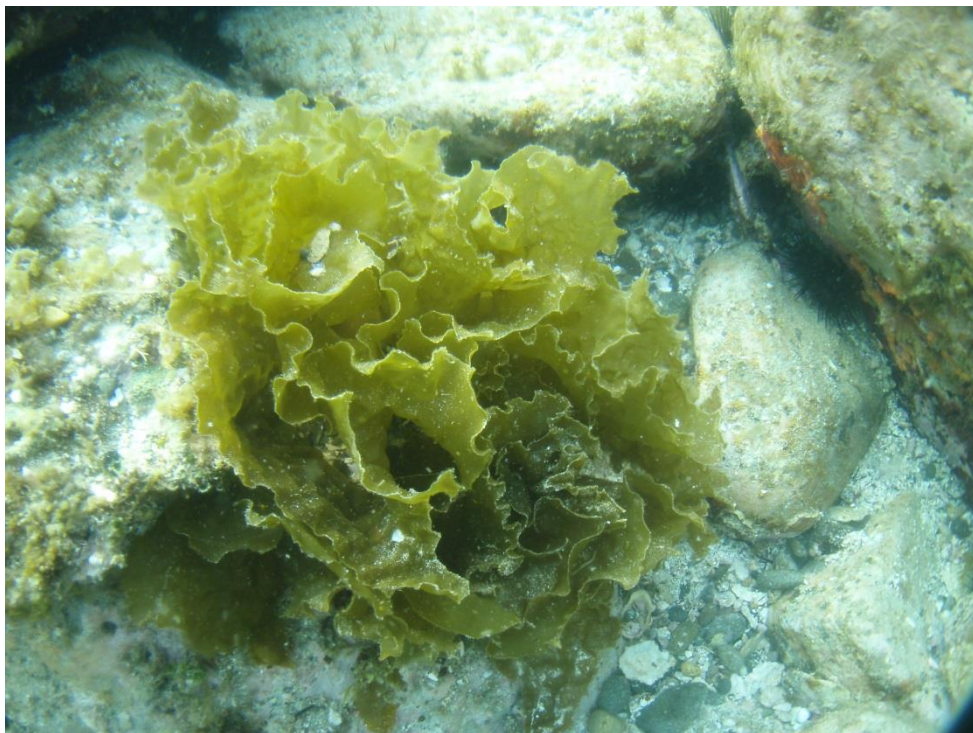
ウミウチワ

形態	名前通り体は扇状に広がっている
分布	5～6月にかけて鵜瀬の岩礁帯の浅場に海底を埋め尽くすように生えている 北日本を除く全国各地の浅所に生育する
その他	本州では1年中見られるが、九州沿岸では夏にはなくなることが多い。 食用にはしないが、食害に遭いやすい海藻のひとつである

かつては生えていたが、今では生育がみられなくなり
再生が望まれる大型海藻類



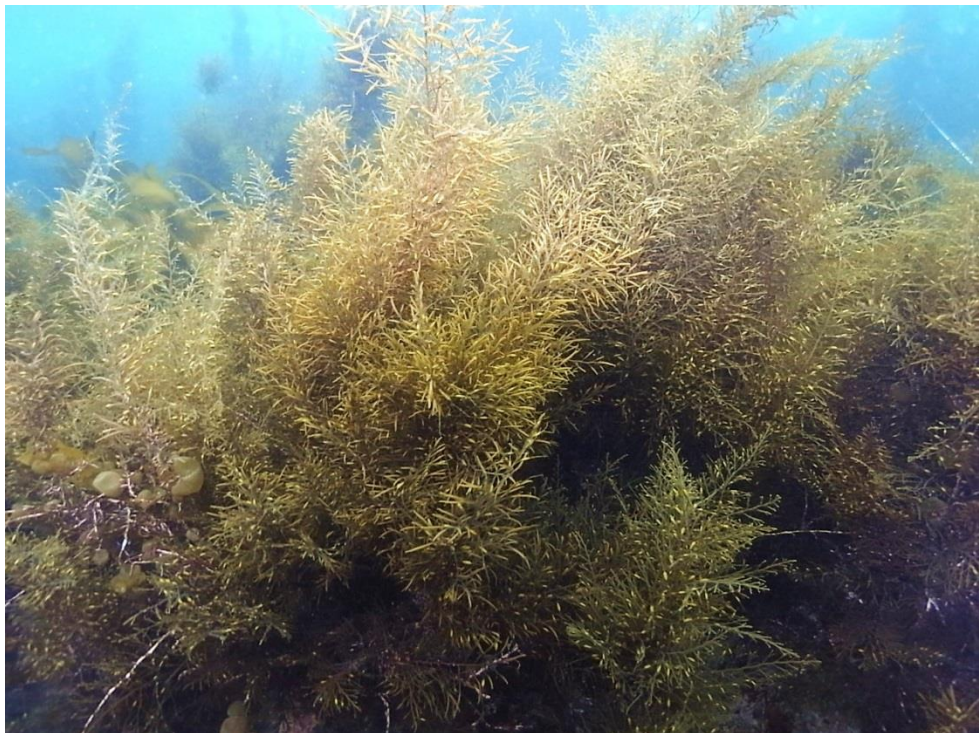
クロメ(多年藻・海中林を形成、アワビ・サザエの餌に最適)



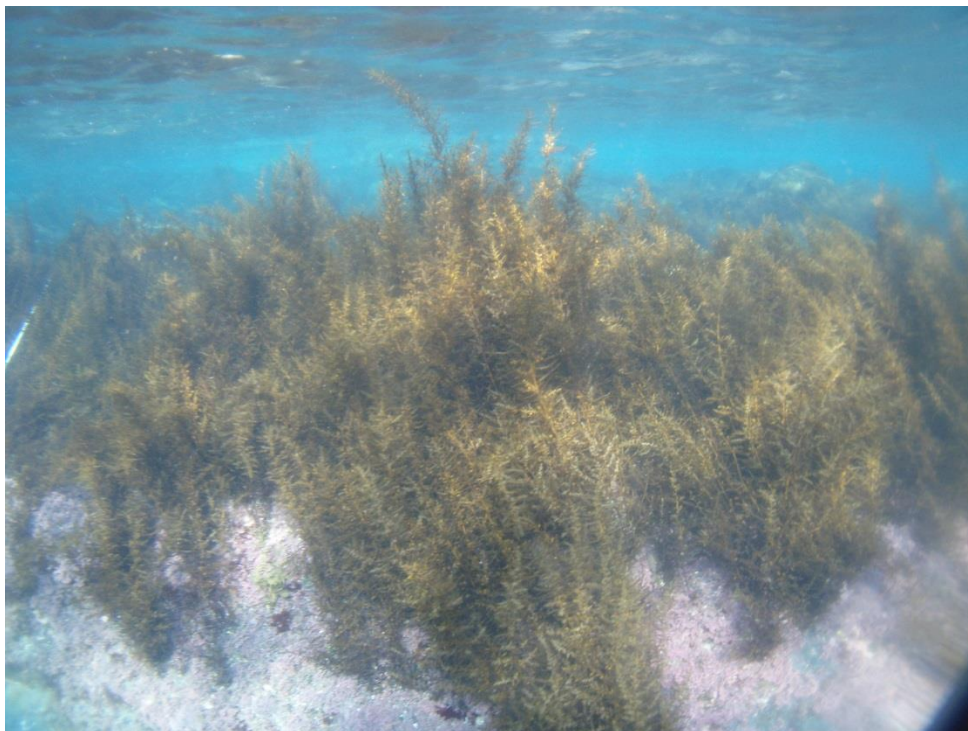
アントクメ (近隣海域ではわずかに残る)



ノコギリモク(多年藻・大型藻場を形成)



ジョロモク



トゲモク



ヤナギモク(多年藻)

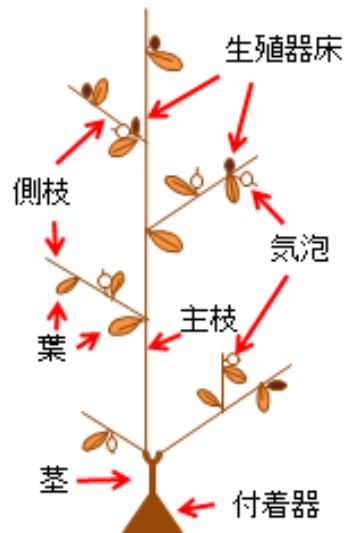


ヨレモク(多年藻)



ホンダワラ

モクの種類の見分け方



- 付着器 —  円錐状 (ノコ・トゲ・ヨレ・ネジ・オオバモク)
-  盤状 (マメ・ヤツマタ・タマハハキモク、他)
-  仮盤状 (アカモク・ホンダワラ、他)
-  繊維状 (イソ・タマナシモク、他)
- 主枝 — 断面が三角形、円形、扁平
表面にねじれ、棘を持つ
- 葉 — 線状、鋸歯状、へら状、羽状、糸状
- 気泡 — 球状、紡錘状、卵状、円柱状
先端に冠葉あるいは側縁に翼を持つ
- 生殖器床 — 成熟期のみ見られる
殆どの種類が雌雄株を持つ
円柱状、扁平、叉状、棘(有り)

出典: 西日本オーシャンリサーチ